

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策No.313

記入日 平成 25年 7月 25日

点検日 平成 25年 7月 30日

施策名	質の高い既成市街地の整備	施策担当マネージャー	都市建設部次長	マネージャー氏名	小高 仁志	内線	407
政策展開の基本方向	3 「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	政策	3.1 魅力あふれるまちづくりを進めます				
関連計画・根拠法令等	①都市計画法 ②道路法		③中心市街地活性化法		④都市計画マスタープラン		

1. 施策の目的・成果	(1) 施策の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。)						
	①都市軸(新鎌ヶ谷駅周辺、初富駅周辺、東武鎌ヶ谷駅周辺) ②近隣商業拠点(鎌ヶ谷大仏駅周辺、北初富駅周辺、くぬぎ山駅周辺) ③上記以外の周辺市街地						
	(2) 施策の意図(対象をどのような状態にするのか)						
	①都市基盤が整備され、都市軸にふさわしいにぎわいが生まれます。 ②身近な近隣商業業務が集積し、利便性が確保されます。 ③都市基盤が整備され、良好な居住環境が確保されます。						
(3) 施策の成果							
	指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	目標値 (目標年度27年度)
施策	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	—	—	—	50.0
	既成市街地整備事業着手地区数	地区	1	2	2	2	1
基本事業	都市軸形成促進事業整備箇所数	箇所	2	2	2	2	1
	近隣商業拠点整備事業整備箇所数	箇所	0	0	0	0	0
	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	—	—	—	50.0

2. コストの推移	年度	単位	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 決算見込み額	平成25年度 予算額	目標年度(年度) 今後の計画総額
	コスト・指標	千円						
	(1) 総事業費 自動計算	千円	93,052	126,635	36,254	2,157	3,821	0
	① 国庫支出金	千円	26,500	9,500				
	② 県支出金	千円						
	③ 市債・その他財源	千円	23,800	62,700				
	④ 一般財源	千円	42,752	54,435	36,254	2,157	3,821	
	(2) 総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間 /年	8,786	9,882	4,700	4,373	0	0
① 正職員(時間内)	時間 /年	7,773	8,182	3,900	3,800			
② 正職員(時間外)	時間 /年	334	280	218	185			
③ 非常勤職員	時間 /年	679	1,420	582	388			

3. コスト説明	(1) 市民一人あたりコスト	円	327	(2) 全施策中の順位	この施策は、全42施策中	15	番目にコストをかけています。
----------	----------------	---	-----	-------------	--------------	----	----------------

4. 環境分析	(1) 過去5年間で施策を取り巻く環境はどのように変わったか	・新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業が平成20年度に換地処分が行われ、平成22年度には成田スカイアクセスが開業しました。	(2) 今後施策を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	・東武野田線及び新京成連続立体交差事業の事業効果の面から初富交差点の改良を含めた初富駅周辺の既成市街地整備の要望が高まることが予想されます。
	(3) 施策について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見等)	・中心市街地の活性化に向け、初富駅周辺や東武鎌ヶ谷駅西口周辺の計画的な整備促進が要望されています。	(4) 国・千葉県の方針並びに関係法規等の変化	・国はこれまでの車社会を前提とした拡散型のまちづくりからコンパクトなまちづくりにシフトした施策を推進しています

5. 施策を構成する事務事業の状況※施策中優先順位順に記載	優先度	事務事業名	担当課							
	A	都市軸形成促進事業	都市計画課							
	B	都市軸形成促進事業に要する経費	都市計画課							
	C	東武鎌ヶ谷駅東口整備に要する経費	都市計画課							
		土地区画整理事業に要する経費	都市計画課							

① 施策の中で優先度が高い事務事業から順に、A→B→Cの3区分で表示しています。
 ② 優先度の判断は、「施策貢献度」「行政の果たす役割の大きさ」「投資効果」「市民ニーズ」「緊急性」の5つの尺度で相対的に判断した結果です。

6. 評価・検討	(1) 行政関与の妥当性	3: 高い	(理由) なぜ、市が関与する必要があるのか？ 市民等との役割分担は適切か？ ・ 施策を展開するための制度面、財政面で行政の関与が必要です。
	(2) 目的妥当性	3: 高い	(理由) 施策の目的は政策にどのように結びついているか。 ・ 初富駅周辺や東武鎌ヶ谷駅西口周辺の既成市街地における利便性や安全性、快適性を高めることにより都市軸としてにぎわいと魅力あふれる中心市街地の形成に結びつくものです。
	(3) 公平性	3: 高い	(理由) 対象は偏っていないか？ 対象を広げたり狭めたりできないか？ ・ 都市軸の整備はコンパクトで魅力あふれる空間の形成と市民生活の利便性の向上に資するものです。
	(4) 有効性	3: 高い	(理由) この施策を廃止した場合支障があるか。同じ目的を持つ他の施策はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ ・ 廃止することにより、各地区の賑わいや利便性の確保、良好な居住空間の確保に支障をきたします。
	(5) 効率性	3: 高い	(理由) コストがかかりすぎていないか？ どうしたらコスト、所要時間を縮減できるか？ ・ 活用できる補助制度の検討を進める必要があります。
	(6) 総合評価	6. 精査・検証	(今後の方向内容) ・ 市民との協働で地域の特性や課題を踏まえながら地域の実状に合った整備計画を策定する必要があります。また、整備完了後における地域活性化への取り組みについても地域住民と検討していく必要があります。

7. 改革・改善案	(1) 改革・改善の方向	・ 整備方針について策定中の地区において、地域住民との協働により策定し事業を進めます。
	(2) 改革・改善案の概要 ※ 指標改善の根拠とコストを示す	・ 既成市街地の整備は、地域住民との協働によるまちづくり組織のもとで策定した整備方針を基にコスト縮減を図りながら整備を進めます。
	(3) 改革・改善案の問題要因と克服策	・ 地域住民による合意形成を実現性あるものとするため協働、調整、合意手続き等のルール化を検討する必要があります。
	(4) 改革・改善案導入の考え方 ※ 施策担当マネージャー所感	・ 実現可能な整備手法を選択しながら短期・中期・長期の総合的な整備計画を策定し、地域住民の協力のもと、コスト縮減を踏まえて事業化していくことが必要であると考えます。

8. 成果とコストの方向性	成果の方向性	向上			
	コストの方向性	維持		○	
		低下			
		縮減	維持	増加	
コストの方向性					

成果とコストの方向性に関する説明

現状維持しつつ、短期・中期・長期の総合的な整備計画の昨てを目指し、コスト縮減についても併せて実施する。

※ 評価検討(1)～(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない
 ※ 総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 現状維持、7: 拡充
 1 終了: 事業が完了したので、終了する 2 廃止: 事業を廃止する 3 休止: 再開を前提に休止する
 4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する 5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する 6 精査・検証: 精査・検証の上、継続する
 7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する